奄美海上保安部便り

通算第13号　2008(H20).12月22日発行(増刊)

峠坂「なみのうえ」船長

海のもしもは　１１８

年末年始特別警戒出動式および安全点検！

奄美海上保安部は、平成２０年１２月１０日年末年始特別警戒初日に、新港待合ターミナル２Ｆで出動式を行い、名瀬港着岸のフェリー「なみのうえ」(6,586トン旅客定員804名那覇～鹿児島航路)の安全点検を実施した。点検等終了後、酒瀬川奄美海上保安部長が訓示の中で、安全運航の指導・不審者不審事故に対する自主警戒の強化・乗客の避難誘導等の積極的な自主訓練について呼びかけをしました。講評の後、峠坂　賢治「なみのうえ」船長から、「今後も安全運航・自主警戒の強化を図って行きます。」との決意表明がありました。

奄美海上保安部
〒894-0034
奄美市名瀬入舟町22-1
電話(代表)0997-52-5811

第９回未来に残そう青い海環境図画コンクール

一般家庭からの生活排水や，河川や海に何気なく捨てられたゴミが海洋汚染の原因となっていると考えられることから，海洋環境を保全するためには，国民一人一人の海洋環境に対する意識を向上させることが重要であり，海洋環境保全思想の普及を図るとともに海上保安業務への理解の促進を図ることを目的として，小学生及び中学生を対象とした図画コンクールを実施しました。

酒瀬川　奄美海上保安部長

積山　名瀬美術協会副会長

久保井　名瀬美術協会会長

澤井　第十管区海上保安本部長

宮崎　緑　園長

受賞者の皆様

奄美海上保安部では、小中学生を対象として、海上保安庁主催の「第九回未来に残そう青い海図画コンクール」の図画作品を募集したところ、例年の応募数を大幅に上回り、奄美群島在住の小中学生から計七百三十五点の応募がありました。

これらの作品の中から、名瀬美術協会：久保井　博彦会長等のご協力により優秀作品三十三点を選考し、鹿児島県奄美パークにおいて、これらの作品を展示し「これが我らのきょら海図画展」を開催（展示期間：十一月二十九日～十二月十四日）するとともに、初日において、優秀作品の表彰式を行いました。

同表彰式においては、奄美パーク宮崎緑園長をはじめ、浜田　龍太郎奄美副市長（(財)海上保安協会奄美支部長代理）及び房　克臣瀬戸内町長（(財)海上保安協会瀬戸内支部長）を来賓に迎え、澤井　弘保第十管区海上保安本部長も来島され、入賞の児童・生徒に対し直接表彰状・副賞を授与されました。

なお、宮崎　緑園長の祝辞では、平成十三年十二月に奄美近海で発生した九州南西海域工作船事件と、同時期に開園した奄美パークの式典に触れられ、その後、同パークに、工作船からの発射弾痕が残る巡視船の風防を展示したエピソードなどをお話されました。また、受賞後の子供達に、「未来に向かって、人生の白いキャンパスにいろんな心の絵を描いて下さい！」との優しく暖かいエールをいただきました。

140周年　灯台記念日

海上保安庁では、灯台業務の開始を記念するため、観音埼灯台の起工日である明治元年11月1日に因んで、毎年11月1日を「灯台記念日」と定め、今年で140周年となりました。
奄美海上保安部では、この 140周年灯台記念日に際し、灯台の灯火監視など永年にわたり航行援助業務に協力いただいた方を表彰するとともに、トンビ埼灯台の一般公開を行いました。

○　航行援助業務協力者の表彰

今井埼灯台の灯火を10年以上にわたり監視協力していただいた　坂野英三　様へ奄美海上保安部長表彰（感謝状）と副賞の盾が山下次長より伝達されました。
（11月 4日　奄美市笠利町　崎原ビーチにて）

10年間ありがとうございました、今後もよろしくお願いします！！

○　トンビ埼灯台一般公開

11月　2日（日）に喜界島のトンビ埼灯台を一般公開し、灯台敷地内で制服試着会、海上保安官による三味線演奏会及び海洋環境紙芝居などを行いました。盛りだくさんの内容に訪れた皆様から、たくさんのお礼の言葉をいただき、海上保安庁の大きなＰＲとなりました。　（ご来客者　約２００人）

子供たちの笑顔が、かわいいな～　また来てね！！

海のもしもは　１１８

練習船こじま入港歓迎式典及び一般公開

平田奄美市長歓迎挨拶

練習船こじま

崎山こじま船長挨拶

亀甲実習生代表挨拶

一般公開

平成２０年１１月１６日（日）海上保安大学校の練習船「こじま」が名瀬観光バースに着岸し、奄美市主催の入港歓迎式が開催され、奄美支庁長・奄美市長から奄美の自然・海の特色など観て頂き、多いに見聞を広めてもらいたい等の歓迎挨拶がありました。引き続き、こじま船長・実習生代表に花束贈呈があり、崎山学こじま船長及び実習生代表で鹿児島出身の亀甲　大輔（かめこう　だいすけ）君の挨拶がありました。その後、船内の一般公開があり、練習船「こじま」としては、今まで最高の一般公開乗船者１，０８５名を記録する盛況でした。同公開に際し、地元報道関係3社の取材があり、翌日の新聞紙上に、崎山船長の「名瀬港は静穏度が良く正に洋上のオアシスだ。実習生は寄港するそれぞれの港、海上保安の特色を学んで欲しい。」、亀甲実習生の「奄美の風土に触れ、多くの人との交流を楽しみ、見聞を広めたい。」との談話が掲載された。

海のもしもは　１１８

平成20年度　名瀬港総合防災訓練

美しい海を守る！

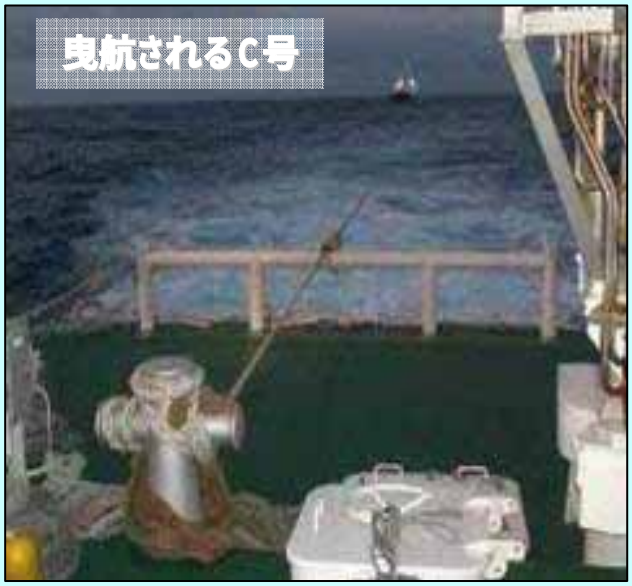
１０月２８日、名瀬港佐大熊岸壁及び前面海域において、奄美大島北部排出油防除協議会会員（１４機関団体約１００名）により、総合防災訓練を実施しました。

訓練は、着桟中のタンカーから油が流出したことなどを想定し、同協議会各機関による油防除などの作業を演練し、関係機関の協力体制の充実強化を図りました。

また、これに先立ち、横浜機動防除基地の主任防除措置官による講習を行い、ここで教わった油防除手法等を実践することにより、油防除技能の向上を図ることができました。

オイルタンカー曳航救助

船舶の安全と美しい海を守る！



１０月３１日午後５時２０分頃、徳山からシンガポールに航行中であるオイルタンカー「ＣＬＥＡＮＳＥＡＳ　ＵＮＩＴＥＤ」(999トン)が徳之島北西約６海里付近にて機関故障で修理不能、漂流状態となり、該船から第十管区海上保安本部に無線により救助要請があった。

このため、直ちに同本部は、鹿児島保安部、奄美保安部と航空基地に発動を指示し、奄美から巡視船かいもん等３隻、鹿児島から巡視船おおすみ、航空基地から航空機とヘリコプターが出動した。該船は、風に流されあわや徳之島沿岸に乗揚げ寸前のところ、急行した巡視船かいもんが無事に該船をキャッチし曳航した。かいもんは、限界ギリギリのＣ号を曳航しつつ北上し、翌日午前７時に大型巡視船おおすみへ引き引き継いだ後、狭い大島海峡に入り大型タンカーを上手く曳航しつつ、午後２時無事に古仁屋港沖に錨泊させた。

もし、乗揚げ油流出となれば、乗組員の人命と美しい海に深刻な海洋汚染を引き起こす危険性があった。